

# 平成26年度 事業報告書

公益財団法人 鍋島報効会

## 公1 [I] 徴古館の運営（定款第4条第1項第1号に定める事業）

### (1) 展示公開事業

#### 1) 企画展

十代藩主鍋島直正公生誕200年を記念しての人間直正公に焦点をあてた下記4回の企画展と、恒例の雛祭り展を開催した。

##### 第66回展「幕末佐賀名君誕生」

会期:平成26年5月19日～7月5日(42日間)

入館者数:477名

概要:両親はじめ養育係の老女や侍講との関係から幼少期の直正公を取り上げた。

##### 第67回展「鍋島直正の側近たち」(49日間)

会期:平成26年7月28日～9月13日

入館者数:754名

概要:製砲や長崎台場築造、西洋医学の導入など幕末佐賀藩の主な事業を推進した藩士との関わりを紹介した。

##### 第68回展「鍋島直正の本音 一愛娘への手紙から」

会期:平成26年10月6日～12月6日(51日間)

入館者数:724名

概要:長女貢姫に宛てた直筆の書簡23通を展示。17歳で川越藩主松平家へ嫁した後も、愛娘の心身を案じる言葉や実家鍋島家の近況を書き送った書簡からは、貢姫のほか正室や側室、嫡男直大、女中らに対する想いが読み取れた。

##### 第69回展「鍋島直正公御一家」

会期:平成27年1月5日～1月31日(23日間)

入館者数:512名

概要:直正公や娘の装束、正室所用の調度品、直正公から貢姫、直大へと受け継がれた雅楽器などの御道具を通じ、御一家の繋がりを紹介した。

※前年度開催の第64回展「閑叟公銅像」(会期平成26年1月14日～26日)及び本年度開催の第66回展・第67回展の総合図録『生誕200年記念展 鍋島直正公』を出版した。

##### 第70回展「鍋島家の雛祭り」

会期:平成27年2月21日～3月31日(39日間)

入館者数:11,842名

概要:佐賀城下ひなまつりの一環として、鍋島家伝来のお雛様の展示を行った。大名家・侯爵家伝来の雛人形・雛道具の風格は他所では見られないものであり、県内外の多くの方々に喜ばれた。

#### 2) イベント

①漆原尚子:第20回プレイエル小音楽会(平成26年9月7日/90名)

②東京・伶楽舎5名:雅楽演奏会(鍋島家伝来雅楽器も使用して)(平成26年11月9日/75名)

③栴島禅徹と佐賀香遊会:第6回香道体験会「初春の香りを楽しむ」  
(平成27年1月26日/48名)

④宗へん流・裏千家流:お抹茶席(ひなまつり期間中土日祝日開催)488名

⑤近藤イツ子社中:お箏の音色(ひなまつり期間中土日祝日開催)

## (2) 調査研究事業

### 1) 城下絵図の読み解き、文献資料の調査解読、データベース化

- ①城下絵図に関する内容を含む講演・講座の講師派遣依頼が14件あり、成果を報告する機会を得た。
- ②佐賀市文化財保護審議会、佐賀市歴史まちづくり協議会委員として発言の機会を得た。
- ③直正書簡研究会を7回開催し、その後、来年度出版に向けての校正作業を継続中。

### 2) 佐賀城下探訪会の実施

4回の計画内容を記載したチラシを早めに作成し配布した結果、過去4年間の探訪会に比して、参加者が増加した。より多くの方に佐賀の歴史や文化を理解する良い機会を提供できた。

- 第1回「鍋島直正が愛した金立・川上」(平成26年9月21日／112名参加)
- 第2回「鍋島直正が訪ねた城下北郊」(平成26年10月19日／107名参加)
- 第3回「鍋島直正を支えた側近たち」(平成26年11月16日／122名参加)
- 第4回「長崎警備の拠点ー深堀・諫早」(平成26年12月15日／126名参加)

## (3) 収蔵保管事業

- ・収蔵庫は24時間空調で対応している。
- ・新収蔵資料(寄贈)及び借用資料の燻蒸を実施した。
- ・年2回収蔵庫空調設備の保守点検を行い、本年度は空調機圧縮機の取替えを行った。

## (4) 施設の貸与及び保全

### 1) 施設の貸与

- ①幕末佐賀研究会例会5回 (5/23・7/18・9/19・1/16・3/27)・・・幕末佐賀研究会
- ②文化庁支援事業定例会12回 (4/16・5/21・6/18・7/16・8/20・9/17・10/15・11/12・12/3・1/21・2/17・3/18)・・・さが城下まちづくり実行委員会
- ③佐賀城下案内板検討会7回 (7/16・8/20・9/17・10/15・11/12・2/17・3/18)・・・佐賀市都市デザイン課
- ④「白帆注進」勉強会8回 (4/28・5/26・6/30・7/28・8/25・9/29・10/27・11/28)・・・佐賀県立図書館
- ⑤佐賀大学地域学歴史文化研究センター主催講座(11/8)・・・佐賀大学
- ⑥佐賀植物友の会研究報告会 (1/18)・・・佐賀植物友の会
- ⑦佐賀市歴史まちづくり協議会 (2/17)・・・佐賀市都市デザイン課
- ⑧煎茶教室7回 (9月～3月)・・・賣茶流
- ⑨生花教室17回 (5月～3月)・・・室町御流
- ⑩鍋島緞通展 (10/9～10/13)・・・無寒暑庵

※なお消防署の指導及び消防法に基づき、1、2階共に緊急警報装置を設置した。また館内でのインターネットサービスのため、Wi-Fi環境を整備した。

### 2) 登録文化財【徴古館】の保全

本館と収蔵庫を結ぶ渡り廊下部に結露が生じていたため、このスペースを結露防止工事を実施した上で、書庫及び作業室として整備した。また館内階段手摺の補修及び階段下の床のきしみ調整工事を行った。

## (公1)[II]史跡等の保存事業(定款第4条第1項第2号に定める事業)

史跡等の保全のため、以下の8件について除草等を実施し、訪問者により環境を整えた。

- (1) 鍋島家春日御墓所
- (2) 十可亭跡公園
- (3) 高傳寺墓所及び御位牌所(佐賀市史跡)
- (4) 鍋島直茂誕生地・胞衣塚(佐賀市史跡)
- (5) 築地反射炉跡記念碑(佐賀市史跡)

- (6) 萬部塔と六地藏(佐賀市史跡)
- (7) 弘道館記念碑
- (8) 青山墓地

また、東京の菩提寺賢崇寺(港区史跡)の現状確認作業を行った。

(1)の春日御墓所について、お位牌(霊璽)を納め祭祀を行う御祀堂の屋根の損傷が激しく、雨漏りも心配される状況であり、27年度早期に対応工事を実施する予定である。

#### (公1)[Ⅲ]研究助成事業(定款第4条第1項第3号に定める事業)

以下の5件を助成対象に決定し、合計101万円を平成26年4月5日に授与した。1年間の研究成果を3月末までに報告。平成27年5月30日に研究報告会を開催し、成果を広く公開する機会を設ける。

1 秋元 茂陽 「佐賀藩主鍋島家の墓制史の研究」	助成額 250,000円
2 森谷 美保(そごう美術館 主任学芸員) 「香蘭社に秘蔵された明治期のデザイン画 ―温知図録と、1900年パリ万博へのデザイン画を中心に―」	助成額 230,000円
3 布施田 哲也(公立丹南病院 副病院長) 「鍋島直正公を診察した米国医師Boyerの診察記録(1968・7・30Kyoto)」	助成額 130,000円
4 吉岡 誠也(中央大学博士後期課程4年) 「幕末期の開港場長崎と佐賀藩 ―長崎警備・新政府への引き継ぎを中心に―」	助成額 200,000円
5 榎本 碧(静岡大学農学部造林学研究室) 「現存する歴史的土木構造物にみる筑後川河口の川港の歴史」	助成額 200,000円

なお平成25年度及び本年度の研究成果を1冊に纏めた『公益財団法人鍋島報効会研究助成研究報告書 第7号』は27年度に出版する。

#### (公1)[Ⅳ]一般助成事業(定款第4条第1項第3号及び第4号に定める事業)

以下の11件を助成対象と決定し、各団体に合計286万円を助成し活動を支援した。

1 松浦党研究連合会 『松浦党研究』及び資料集の刊行費	助成額 100,000円
2 公益財団法人佐賀育英会 松涛学舎の鍋島文庫図書整備費	助成額 100,000円
3 佐賀県中学校体育連盟 大会の入賞盾及び優勝旗1本新調費	助成額 280,000円
4 佐賀美術協会 美協展での「鍋島報効会賞」4部門への授与	助成額 80,000円
5 宗教法人佐嘉・松原神社 佐賀藩祖藩主の祭祀行事(春秋例大祭)に対し寄進	助成額 100,000円
6 佐賀植物友の会 機関誌『佐賀の植物』発行費	助成額 600,000円
7 佐賀自然史研究会 会誌『佐賀自然史研究』発行費	助成額 150,000円
8 佐賀県菊花愛好会 佐嘉・松原両神社へ献花、「鍋島報効会賞」の授与	助成額 50,000円
9 工房くらし月 佐賀県出身の教育者真崎誠の「絵はがき」展	助成額 200,000円
10 NPO法人国際下宿屋 佐賀で学ぶ留学生への住居支援のため建物賃料補助	助成額 600,000円
11 佐賀ん町屋ば甦らす会 松原神社参道での町おこしの活動に対し建物賃料補助	助成額 600,000円

#### 収1 不動産賃貸に関する事業(定款第4条第1項第5号に定める事業)

収益事業収入は前年度より減少した。貸地料・貸家料に関しては借地返還、地料滞納、貸家未入居等により減少傾向は続いている。問題案件も増加しており、その対応も含め収益事業全般について内容改善に努めている。返還土地(返還予定含む)の活用法についても検討を続けている。

#### 他1 鍋島直正公銅像再建委員会事務局助成

直正公銅像再建事業への寄附金は現時点で既に目標額を達成している。当年度の事務局業務は寄附金を募る活動が主であり、事業は順調に進捗している。本年6月で寄附金の受付は終了し、27年度は銅像の設計建設施工のための作業へ移行する。当会としても可能な範囲内で協力したいと考えている。